

世界史A学習指導案

授業者 大森 淳矢

1 単元 ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成

2 単元の目標

- (1) 国民国家の成立・形成が進展したことに対する興味・関心を高めて意欲的に追究することができる。
- (2) 国民国家の成立・形成が進展したことに対し多面的・多角的に考察し、その過程や結果を表現することができる。
- (3) 国民国家の成立・形成が進展したことに関する資料から有用な情報を読み取り、図や表がまとめたりすることができる。
- (4) 国民国家の成立・形成が進展したことを理解し、その知識を身に付けることができる。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
国民国家の成立・形成が進展したことに対する興味・関心を高めて意欲的に追求しようとしている。	国民国家の成立・形成が進展したことに対し、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を表現している。	国民国家の成立・形成が進展したことに関する資料から有用な情報を読み取り、図や表がまとめたりしている	国民国家の成立・形成が進展したことを理解し、その知識を身につけていく。

3 単元の指導について

本単元では、欧米諸国の工業化と国民国家の成立について扱う事で、それがその後の社会に与えた影響を捉えさせ、現代の世界の在り方について理解させることをねらいとしている。

本クラスは男子＊人、女子＊人、合計＊人の生徒が在籍している。学習には高い集中力で取り組む生徒が多い。しかし、やや消極的で、自発的に質問したり、答えたりすることが苦手である。この点について、授業開始20分間を課題解決の時間として机間指導で個別に指導することや、視聴覚教材の活用によって生徒に学習内容のイメージを持たせて、課題解決の糸口を見付けやすい環境を作るよう工夫し、教員による一斉授業ではなく、生徒が主体的に学び合う授業を目指している。

4 指導計画（6時間取扱い）

第1次 自由主義・ナショナリズムの進展····· 6時間

時	学習内容・活動	関 心	思 考	技 能	知 識	観点別評価規準
1	・市民革命で盛り上がった自由主義の思想が、 ウイーン体制を崩壊させた流れを理解する。 また、ナショナリズムがこの時期の政治動向 に与えた影響を理解する。	○		○		・市民革命で盛り上がった自由主義の思想について意欲的に追究することができる。
2	・産業革命の進展により、国際分業体制が進み 世界市場が成立したことを理解する。		○	○		・産業革命の発展が、社会に与えた影響について理解している。
3	・国民国家の成立について、イタリア・ドイツ のケースを中心に学習する。	○		○		・国民国家が成立する中で発生した問題を理解し、現在の私達の世界における問題との関連について意欲的に追究している。
4	・第1時の内容とリンクさせつつ、ドイツにおける19世紀の史料に触れることで国民国家の問題についても理解する。			○		・国民国家が成立する中で、人々の国家への帰属意識が高くなっていた過程を理解している。
5	・ロシア外交政策の柱であり、19世紀後半から 20世紀にかけて欧米列強の対立軸となった南 下政策について理解する。		○	○		・ロシアの南下政策が西欧諸国に与えた影響について考察している。
6	・19世紀のアメリカ合衆国西部の発展と、それ に寄与した移民の役割に注目させる。また、 南北戦争の原因と北部の勝利の意義を理解させ、戦後アメリカ合衆国の発展と諸問題を理解する。	○	○	○		・ラテンアメリカ諸国の独立の経緯や動きについて、意欲的に追究しようとしている。 ・西部の発展と移民の役割や南北戦争の原因および民主主義の本質について理

5 本時の指導

(1) 目標

国民国家の成立についてドイツのケースを取り上げ、国民統合によって強者が弱者を弾圧する問題が生じたことを、史料を使いながら考察する事が出来る。

(2) 準備・資料

ポーランド人による学校ストライキ問題を扱った、19世紀末から20世紀初頭のドイツ帝国議会議事録、ドイツ社会民主党の党大会議事録・機関紙。各種論文・史料。

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
<p>1 本時の学習課題について知る。</p> <p>国民国家の成立による国家統治は、各国家においてどのような問題を生み出したのか。</p>	<p>※前時において、ドイツ・イタリアの国民国家の成立については既習である。また、ナショナリズム・国民国家についても既習である。</p>
<p>2 教科書、配布資料および前時までの授業プリントを使用し、ドイツ帝国において少数民族となつたポーランド人のおかれた状況を考える。</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ国の国民なのに、ドイツ人が何故ポーランド人に敵対的な姿勢をとり続けるのかが分からぬ。 <p>3 既習のナショナリズム・国民統合の内容から、言語・文化による同属意識の高まりと、少数派への排撃運動の高まりを考える。</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 少数派が厳しい状況に置かれるのは、当時も今もあまり変わらないでは。 <p>4 労働者の国際的連帯を訴えていた社会主義者が徐々に国民統合へと流れていき、ポーランド人を弾圧するドイツ政府の側についていく過程から、ナショナリズムが持ついくつかの側面を考える。</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一つの国家として発展していく以上、多数派の意見が重要ではないか。そのためには、少数派が多数派の側に合わせるべきではないか。 少数派の人々を力で抑えつけてしまうと、国家として逆にまとまることが出来ないのではないか。 <p>5 多数派（強者）が少数派（弱者）に対して接する姿勢は、共通項があることを考える。</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 少数民族を差別する姿勢は、最近の「勝ち組・負け組」で人を分けてしまう論法にも似ている。 <p>6 本時のまとめをする</p> <p>国家統治によって、国民が誕生した時に、多数派の民族が少数民族を差別するという問題が生み出された。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 19世紀末から20世紀初頭にかけての、ドイツ帝国におけるポーランド人問題についての史料および訳文を配付する。 ドイツ帝国宰相ビスマルクが妹に宛てた手紙を通して、ドイツ人がどのような姿勢でポーランド人に臨んだのかを理解させる。 当時の史料を提示し、ポーランド語の使用が禁止された結果、1901年と1906年に学校ストライキが起こった事を取り上げる。 ポーランド人の独立運動を、最近のカナダ・ケベック問題やイギリス・スコットランド問題とも関連付けて国民国家の問題について理解を深めさせる。 史料によって提示し、既習の社会主義と第二インターナショナルに触れ、ドイツ社会民主党がポーランド人問題にどのように対応していたかを、理解させる。 第二インターナショナルでの各国社会主義者の発言から、自国民に対する優越性と、それ以外の人々に対する差別感情が作られつつあったことを理解させる。 <p>(評価)</p> <p>国民国家が成立する中で、人々の国家への帰属意識が高くなつていった過程を理解している。 (ワークシート・発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> ポーランド人が第二インターナショナルで、植民地支配を肯定する欧米人は、自国内での少数派の弾圧にも同じ論法を用いていると発言したのは何故かを補助発問とする。その際、サイードの『オリエンタリズム』についても触れる。 国民国家における少数派の立場と、欧米列強が支配した植民地における支配された人々の立場が近い事を説明する。 <p>(評価)</p> <p>国民国家が成立する中で発生した問題を理解し、現在の私達の世界における問題との関連について意欲的に追究している。(ワークシート・発表)</p>